

2006年8月1日

記者各位

アリスライフサイエンス株式会社  
出光興産株式会社  
セントラル硝子株式会社  
多木化学株式会社

## 「日本微生物防除剤協議会」を本日発足 ～人と環境にやさしい微生物防除剤の普及促進をめざして～

アリスライフサイエンス(株)、出光興産(株)、セントラル硝子(株)、多木化学(株)の4社は、本日、設立総会を開催し、微生物防除剤の普及促進をめざし、「日本微生物防除剤協議会」を発足しました。

設立総会において、決議した協議会の体制と活動計画については次のとおりです。

### 「日本微生物防除剤協議会」の体制

- |         |  |   |                               |
|---------|--|---|-------------------------------|
| ○会員会社   | アリスライフサイエンス株式会社<br>出光興産株式会社<br>セントラル硝子株式会社<br>多木化学株式会社 |   |                               |
| ○代表幹事   | セントラル硝子株式会社  | 取締役・常務執行役員  | 田村 隆                          |
| ○事務局    | 出光興産株式会社   | アグリバイオ事業部<br>東京都墨田区横綱1-6-1 国際ファッションセンタービル9階<br>TEL 03-3829-1455 |                               |
| ○アドバイザー | 社団法人日本植物防疫協会<br>東京農工大学大学院                              | 理事・研究所長<br>教授   | 岡田 齊夫 <sup>むねお</sup><br>国見 裕久 |

### 「日本微生物防除剤協議会」設立の趣旨

- 人と環境に負荷が少ない微生物防除剤の普及促進
- 普及活動を通じた微生物防除剤の認知度向上
- 官公庁・関連団体との連携による微生物防除剤普及の環境整備

## 微生物防除剤の現状

「微生物防除剤」は、もともと自然界に生息する微生物が、病原菌のすみかや餌を奪うことで、作物から病害虫を防除します。その結果、作物に薬害、汚染の心配がなく、使用回数等の制限がないことから、人や環境に対する負荷が少ないという優位性があります。

しかしながら、まだまだ認知度が低く、年間の全農薬市場約3,500億円のうち、約15億円と市場シェアは0.4%にとどまっています。商品数も農薬が約5,000アイテムある中で、微生物防除剤は50アイテム程度と少ないのが実状です。また、即効性のある「治療薬」として使用される化学農薬と「予防剤」として効果を発揮する微生物防除剤について、理解促進のための活動も十分ではありません。

昨今、消費者の“食の安全・安心”への要求は高まり、また国の「環境保全型農業」の推進を受けて、有機栽培や特別栽培農産物生産が広がっています。さらに、2006年5月からは、ポジティブリスト制が導入され、食品の残留農薬への規制が強化されました。

## 「日本微生物防除剤協議会」の活動内容

- 協議会紹介チラシの作成と配布
- セミナー・展示会の実施
  - 9月5日～7日／会場：秋田県、秋田県立大学秋田キャンパス講義棟
  - 「日本土壌肥料学会」展示会出展
  - ＜主要展示物＞
  - バクタレック、ボタニガード、マイコタール(アリストライフサイエンス)
  - ボトキラー水和剤、ボトピカ水和剤、バイオトラスト水和剤、バイオリサカミキリ(出光興産)
  - バイオキーパー水和剤、モミゲンキ水和剤、ベジキーパー水和剤(セントラル硝子)
  - セル苗元気、キャンペリコ(多木化学)
  - 9月28日～30日／会場：山梨県、富士吉田市人材開発センター富士研修所
  - 「昆虫病理学会・微生物防除資材実用化の最前線」
  - シンポジウムの中で紹介、チラシ配布
- ウェブサイトの開設 (<http://www.biseibutsu.jp>)
  - 以下の4点を中心として、8月2日に開設
  - ①設立の趣旨ならびに意義
  - ②体制
  - ③事務局の連絡先
  - ④会員各社のホームページへのリンク
- 農林水産省推進のIPMプログラム(総合防除プログラム)に利用できる素材としてのデータ整備、啓蒙活動の推進など官公庁、関連団体との連携強化

日本微生物防除剤協議会は、微生物防除剤に対する理解をさらに深めていただくための活動を通じて、全農薬市場に対するシェア10%の実現をめざしていきます。

## 各社概要

### ■ アリスタライフサイエンス株式会社

資本金	: 123億円
代表者	: 代表取締役社長 クリストファー リチャーズ
事業内容	: 農薬・肥料・医薬品、医薬部外品、化粧品などの化学製品およびそれらの原材料の 売買、貿易、製造、加工など
売上高	: 1,158億円(2005年12月期)

2001年、株式会社トーマン(現在の豊田通商株式会社)とニチメン(現在の双日株式会社)の農薬部門とライフサイエンス部門を統合して創設。農薬とライフサイエンスの分野において、非上場としては世界最大級の会社です。2005年の売上高は1,158億円で、世界100ヶ国を超える地域で、農薬・ライフサイエンスに関する事業を展開しています。また、世界の各市場で、クオリティーの高い農薬とライフサイエンス製品のマーケティングおよび販売を行っています。

### ■ 出光興産株式会社

資本金	: 513億円
代表者	: 代表取締役社長 天坊 昭彦
事業内容	: 石油製品の精製・販売、石油化学製品の製造販売、資源調達、アグリバイオ、電子材 料ほか
売上高	: 連結3兆3,274億円(2005年度実績)

出光興産は、石油精製・販売を基盤事業に、石油、石炭・ウラン鉱山などの資源開発にも取り組み、エネルギーの安定供給に努めています。石油精製、石油化学事業における研究開発で培った技術をコアに、2005年度～2008年度の4年間にわたる第2次連結中期経営計画では、高性能潤滑油、エンジニアプラスチック、有機EL等電子材料、そして微生物防除剤など高付加価値事業に取り組み、収益基盤を強化してまいります。

### ■ セントラル硝子株式会社

資本金	: 181億円
代表者	: 代表取締役 社長執行役員 中村・良
事業内容	: 各種板ガラス製品、化学品、ファインケミカル製品、肥料、ガラス繊維、微生物農薬・資材
売上高	: 連結1,966億円(2005年度実績)

セントラル硝子グループは、品質重視を基本とし、常に信頼される製品を提供し続けることにより、社会の発展に貢献することを目指しています。事業活動においては、ガラス、化成品事業をコアビジネスとして、その事業基盤の安定化をはかるとともに、高機能、高付加価値製品分野の拡充をはかり、また、製品の開発から廃棄に至る全ライフサイクルにおける「環境・安全・健康」を確保していきます。

### ■ 多木化学株式会社

資本金	: 21億円
代表者	: 代表取締役社長 多木隆元
事業内容	: アグリ事業(複合肥料、リン酸質肥料、加里質肥料及びその他肥料の製造、販売) 化学品事業(水処理剤、機能性材料、一般化学品及びその他化学品の製造、販売) 不動産事業(不動産の賃貸及び開発)ほか
売上高	: 連結277億円(2005年度実績)

多木化学は、肥料、微生物資材などのアグリ事業や水処理剤をはじめとする環境関連薬品の製造、販売が主業務。近年は機能性材料やメディカル材料、そして微生物防除剤などの新規分野にも取り組んでいます。